

4. インタビュー対象者の属性

今回のインタビュー対象者 90 名の属性は、下記のとおりである（表 3-5）。

表 3-5 インタビュー対象者の属性

(1) 企業属性・規模		(4) 性別	
一部上場	28名	男性	58名
以外	62名	女性	32名
(90名中、外資系)	(24名)	(5) 役職	
(90名中、ユーザー企業)	(2名)	役員以上	10名
(2) 年齢		部長	20名
20代	5名	課長	14名
30代	29名	*企業により呼称が異なるため上記役職を 記述している対象者のみ抽出した	
40代	45名	(6) 学部・専攻	
50代	9名	大学：文系	36名
60以上	2名	大学：理系	33名
(3) IT関連職経験年数		高校、高専、専門学校	10名
1～5年	2名	記述無し	1名
6～10年	12名	(90名中、情報処理関係)	(11名)
11～15年	19名	(7) 転職経験者	
16～20年	21名	IT系企業から転職	10名
21～25年	22名	非IT系企業から転職	15名
26～30年	9名		
31年以上	5名		

5. 職種間遷移

インタビュー対象者 90 名の職種間遷移を図 3-217 に示す。これを見ると、多岐にわたる遷移ルートが存在している。なお、図中の箱の高さ、線の太さはその職種の人数に応じて高く、あるいは太くしている。

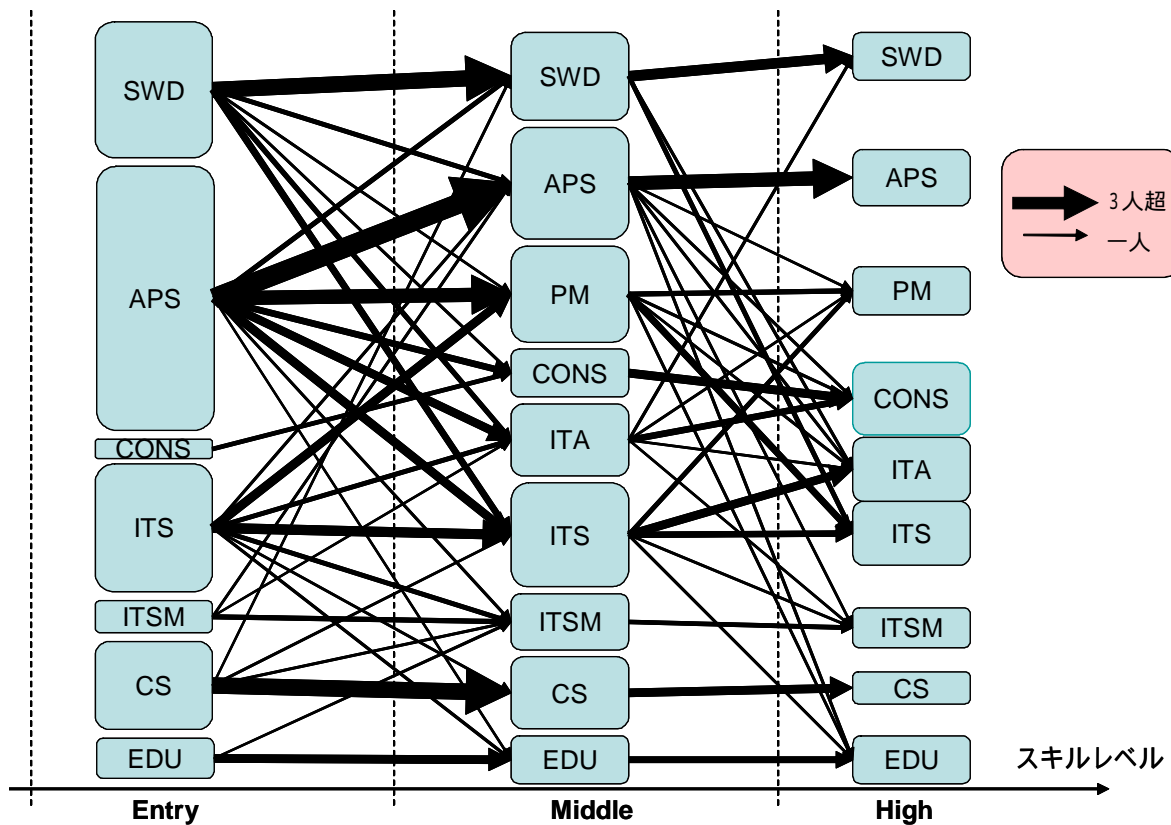


図 3-217 インタビュー対象者 90 人の遷移

全体では、アプリケーションスペシャリスト、ソフトウェアデベロップメント、IT スペシャリストをスタート地点とする、様々なキャリアモデルがあることがわかった。

また、現在の職種に至るまでにいくつの職種を経験しているかを、さらに詳細に見ていくと、以下のとおりである。

表 3-6 経験した職種の数

	1職種	2職種	3職種	4職種	5職種	6職種以上
CONS	1	1	5	1	0	2
ITA	0	2	4	2	2	0
PM	0	5	1	4	0	0
ITS	2	4	1	3	0	0
APS	5	4	1	0	0	0
SWD	7	2	1	0	0	0
CS	6	2	1	1	0	0
ITSM	0	3	5	1	1	0
EDU	3	1	5	0	0	1
縦計(人)	24	24	24	12	3	3
比率(%)	27%	27%	27%	13%	3%	3%

表 3-6 によると、これまでの経験が 1 職種のみである人は全体の 26.7%、2 職種を経験している人は 26.7%、3 職種経験者は 26.7%で、ここまでで全体の 8 割を越す。4 職種以上の経験者も 20%程度存在する。

職種別では、アプリケーションスペシャリストとカスタマサービス、ソフトウェアデベロッパーは 1 職種か 2 職種であるが、コンサルタント、IT アーキテクト、プロジェクトマネジメント、IT サービスマネジメント、エデュケーションはその職種に至るまでのバリエーションが大きく、3 職種以上を経験している人が多い。

ここまでは、あくまでも今回のインタビュー対象者 90 名の職種遷移の結果であるが、一般的には次のような傾向があると考えられる。

エントリーレベルでは、IT の基本技術を習得しながら、アプリケーションスペシャリスト、IT スペシャリストまたはソフトウェアデベロッパー的役割（業務）を果たす。

あるタイミングで、能動的または受動的に職種の選択が行われる。

職種が変更になる理由は、プロジェクトへのアサインメント、会社都合、上長の配慮、本人の希望など、様々な要素が関連し合っている。

現在どの職種にあっても、本人の適性や志向によって、他の職種に転換することも可能であり、どの職種にあってもその道が開かれている。

以上のことから、図 3-218 に示すように、マーケットニーズや、新しい技術への対応要請や組織内のバランス、本人の志向や上司の適性判断などが要因となって、次の職種へと変遷すると考えられる。

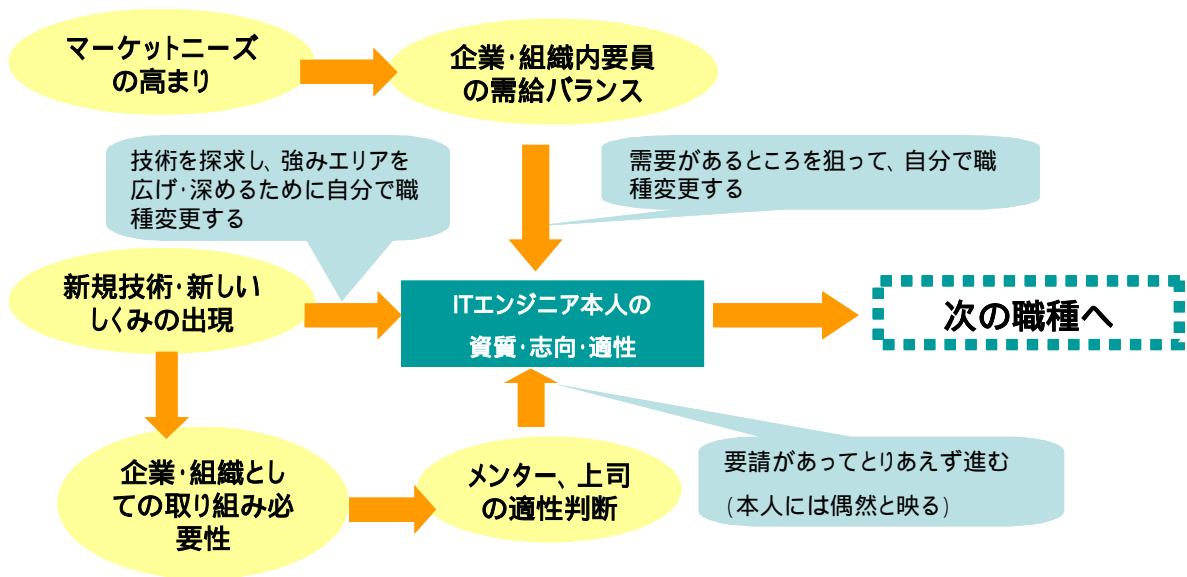


図 3-218 職種遷移のまとめ